# 月刊 あなたにこの本を！ 平成22年4月号

大阪市立図書館　「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

…字が大きめ　…中高生にも　…図・写真が多い

※価格のあとの（　）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

## ココロ医者、ホンを診る　ー本のカルテ10年分からー

ジャンル ： 暮らしにうるおいを

小西聖子　著
武蔵野大学出版会　1995 円
(0011954241)

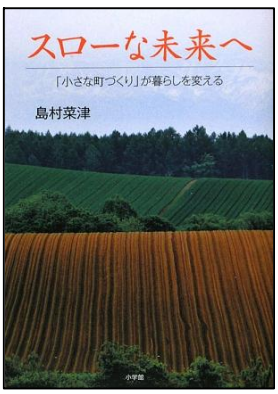
本書は、精神科医の著者が過去 10 年間に執筆した新聞書評から 56 編を収録したものだ。専門家ならではの視点も含めて、科学書、文芸書、児童文学と幅広い本を紹介する。ペットについての本ではペットロス症候群など現代人の抱える心の病にまで話題を広げ、女優の自伝ではその依存体質にも言及する。文章は簡潔にまとめられていて読みやすく、ピリリとした辛口のコメントは小気味よい。作者の心理にも切り込む斬新な読書案内。〔019.1〕

## 河内文化のおもちゃ箱

ジャンル ： 大阪にゆかりの本

水野正好　監修
河内の郷土文化サークルセンター　編集
批評社　2940 円　(0011967295)

大阪府の河内地域で活動する 25 の郷土文化サークルが加盟するセンターが、地元の歴史・文化に関する論述を集めて出版した。河内木綿や河内音頭といった著名なもののほか、古代の「河内大橋」や戦国期のキリシタンなど、あまり知られていない事柄も取り上げる。学芸員の理論だった考察や在野研究者の思いを感じる文面など、様々な味わいの文章を楽しむことができる。まさにおもちゃ箱のような多彩さで、古今にわたる河内の事物を堪能(たんのう)できる。〔216.3〕




## スローな未来へ
### ー「小さな町づくり」が暮らしを変えるー

ジャンル ： 暮らしにうるおいを

島村菜津　著
小学館　1680 円　(0011991973)

大都市から離れ、自然に囲まれたゆったりとした暮らしに価値を見出す人が増えている。本書では、美しい景観や地場産の新鮮な食材で注目される、イタリアや日本の町を著者が取材し、小さな町の魅力をレポートする。また、漁業などへの転職者を手厚くサポートし、若年層の移住者を増加させた島根県海士(あま)町のユニークな取組みも紹介。町を元気にしようと奮闘する人たちの姿がいきいきと伝わる。「スローな暮らし」のヒントがつまった一冊。〔601〕

## 校正のこころ －積極的受け身のすすめ－

大西寿男 著
創元社 2100 円 (0011973458)

ジャンル ： 知識・教養を深める

校正は、出版に必須の作業。本書は、その役割・方法や歴史を記すほか、著者の長年の経験から見えてきた問題にも言及する。著者は、「言葉」の持つ力を信じて向き合う態度が大切、と心構えを説く。文学的な味わいも持って綴(つづ)られる端正な文章からは、著者の真摯(しんし)な姿勢が感じられる。個人が情報を発信できる現代だからこそ、校正の哲学にもとづく言葉とのつきあい方に、誰もが考えさせられる。さらに知りたい人向けの参考文献あり。〔749〕

## ルポ日本の縮図に住んでみる －大丈夫！どこからでもがんばれる－

日本経済新聞社 編
日本経済新聞出版社 1680円 (0011984536)

ジャンル ： 現代社会を見つめる

熟年新聞記者らが、最西端の孤島や労働者の街など、現代日本の抱える問題を率直に反映する6カ所に一カ月間居住し、住民から取材した。同じ地に暮らし、時間をかけて接することで、彼らも心を開き実情を語る。じっくりと掘り下げた記事は読み応えがある。山村の若者自立寮の章では、農作業に充実感を見出し不登校から立ち直ろうとする少年たちの一生懸命な様子が記される。現実は厳しくとも、未来を信じて前向きに生きる人々の姿に勇気づけられる。〔302.1〕

## 日々、きものに割烹着(かっぽうぎ)

猪谷千香 著
筑摩書房 1575 円 (0012010315)

ジャンル ： 暮らしにうるおいを

着道楽だった大正生まれの祖母をもつ著者が、きものについてつづる。「足袋は三枚こはぜ」、「博多帯は季節を選ばない便利な帯」など祖母の助言を受けながら、普段着のような気軽な着こなしを楽しむ著者の姿が興味深い。また、日々きものに親しみ、小物などをきかせた粋(いき)な着こなしをする人々も紹介されている。きものの奥の深さに驚かされるとともに、その良さがしみじみと伝わってくる。口絵の写真も色鮮やかで美しい。〔593.8〕

## 石ひとすじ －歴史の石を動かす－

左野勝司 著
学生社 1995 円 (0011985599)

ジャンル ： 生き方・考え方に学ぶ

本書は、中学卒業後、独学で巨石を動かす技術を習得し、寺院や古墳などの石造物を修復・復元してきた著者の半生記だ。イースター島では倒れたモアイ像を島の人々と力を合わせて立ち上げ、高松塚古墳石室では無傷で石をつり上げるクレーンを開発して解体に挑む。何度も実験を重ね果敢に挑戦する姿からは、強い意志と誇りが伝わってくる。また、素朴な語り口調は、石ひとすじに歩んできた職人の真摯(しんし)な人柄をうかびあがらせ、感慨深い。〔709〕

## 年中行事を五感で味わう

山下柚実 著
岩波書店 882円 (0011993473)

ジャンル ： 知識・教養を深める

たいまつの焦げたにおいがたちこめる「お水取り」、微妙な色の違いを楽しむ「朝顔市」。年中行事は五感を心地よく揺さぶる刺激に満ちている。本書は、季節ごとに多数の行事を取り上げ、著者が実際に体験し感じた印象を、歴史や役割とともに紹介する。感覚を刺激する要素に着目した新しい切り口で、行事がより生き生きと身近に感じられる。若い世代にも足を運び、感覚をはたらかせて、年中行事の面白さを発見してほしいという思いが伝わってくる。〔386.1〕